

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 大西 有紀 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55305ac•bb•cc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 16名 **回答者数** : 16名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	16	-	-	-	-	-	-	16	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.38	[Progress bar]					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.81	[Progress bar]					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.81	[Progress bar]					
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 6.3%	やや 多い 12.5%	適切 81.3%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.81	[Progress bar]					
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.75	[Progress bar]					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.63	[Progress bar]					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 18.8%	やや 高かった 18.8%	適切 であった 62.5%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.81	[Progress bar]					
総合 評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.56	[Progress bar]					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	4.75	[Progress bar]					

1 授業の概要、特徴等

個人レッスン EP教室での集団レッスンの2つの形態で行う。ピアノ、弾き歌いを中心に、幼稚園 保育園で即戦力となりうる力を身につける。個人レッスンなので、各自のレベル・能力に応じ、細かい指導をすることができる。

2 アンケート評価結果に対する見解

レベルが高度・課題曲数が多い との回答が少なからずあった。実際の現場では今以上の内容を求められる事も多い。日々の練習法・指導の仕方など、創意工夫しレベルの向上に努めたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

課題曲を全て合格する。出席。定期試験の受験。授業への取り組み等 総合的に加味し60点以上で単位認定とする。

4 授業改善の方法

授業は比較的真面目に取り組んでいるが、普段の練習は絶対的に足りていないと感じている。ピアノ上達には日々の弛まぬ練習が不可欠である。自身で意欲的に取り組むよう指導してゆきたい。ピアノが楽しく魅力的であると感じてもらえるような授業をしてゆかねばならないと思っている。私自身も常に向上心を持ち、勉強を続けてゆきたい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 玉井 奈摘 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55305ad・bc・cd **授業形態** : 演習 **受講者数** : 16名 **回答者数** : 14名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	13	1	-	-	-	-	-	14	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均				
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.29									
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.50									
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.64									
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切	とても多い - やや多い 14.3%	適切	やや少ない - とても少ない - 無回答 -	85.7%						
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.36									
授業の進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気が乱れないように注意を払っていましたか	3	4.21									
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	4.31									
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切であった	非常に高かった - やや高かった 42.9%	適切であった	やや低かった - 非常に低かった - 無回答 -	57.1%						
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.36									
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.21									
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.14									

1 授業の概要、特徴等

前期音楽Ⅰ無資格者と、試験放棄以外の音楽Ⅰ履修者を対象に、ピアノが弾けるようになる知識、技術および弾き歌いができるようになる知識、技術を身につける。個人レッスン45分とグループレッスン45分で構成される。両方に出席して1回の出席となる。また、どちらかに10分以上遅刻した場合は欠席となるが、授業を受けることはできる。中間試験と期末試験の試験点と、出席点、授業態度などを加味した平常点の総合点をもって単位を認定する。

2 アンケート評価結果に対する見解

評価項目の③与えられた課題にきちんと取り組みましたか に対する回答が全体平均を下回っており、学生の様子を見ているが全体的に時間内の取り組みや、復習が不足していた。④課題の量や内容は、この授業を理解するのに適切でしたか に対する回答が適切だったと答えた学生が多く、課題が多かったわけではないのに手つかずの学生が多かったのだということが分かった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

「バーナムピアノテクニックⅠ」と、「ケーラーこどものためのアルバム」を使用し、ピアノをテクニック面から音楽表現から演奏する技術を身につけることを目標とし、ケーラーについては、課題曲数を2曲、弾き歌いのための教材「こどものうた200」からは課題曲数4曲設定し合格していなければ単位不認定となる。バーナムは指先、手首、肘、腰についての細かい指導を、ケーラーは細かいアーティキュレーションを守りながら、曲想にあった演奏方法、効果的なペダリングなどを指導し、より音楽的な表現を目標とする。弾き歌いについては、両手演奏と歌で実際に子供たちに指導する際に必要な技術を身につける。

4 授業改善の方法

如何にして学生にピアノに興味を持って意欲的に取り組んで貰えるかということ、いつも念頭に置きながら指導するようにしているが、その点でまだまだ力不足であり、新たな知識をもっと提示し、一人ひとりをよく見て、苦手なところや素敵だと感じているところ、上手くできた瞬間などもっと寄り添えるようなレッスンをしていきたい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 中島 倍代 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55305ae・bd **授業形態** : 演習 **受講者数** : 11名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	9	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.11						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.00						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	3	3.67						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
		-	11.1%	88.9%	-	-	-		
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.78						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.78						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.44						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
		11.1%	55.6%	33.3%	-	-	-		
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.56						
総 合 評 価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	3	3.89						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.44						

1 授業の概要、特徴等

クラス授業45分 + ピアノの個人レッスン45分で構成。クラス授業では、1人1台ずつ電子オルガンで練習。弾き歌いの練習、ピアノ演奏の基礎となる練習を行う。ピアノの個人レッスンでは、子供のうたの弾き歌い、ピアノ曲の練習法等のアドバイスをを行う。

2 アンケート評価結果に対する見解

あまり練習しなかったと答えた学生が、意外と多かった事に驚いた。これからの就職に向けて、ピアノの力が必要というのは共通認識と思っていたが、これからはもっとやり方を工夫する必要がある。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標をどの位にするかは、いつも難しい。保育現場で使える力を蓄えてもらいたい。成績評価は、試験の演奏・平常の努力・欠席数・仕上げた曲数など色々な角度から評価して基準点を満たせば単位を認定する。

4 授業改善の方法

授業で徹底して練習させようと考えている。体に馴染ませる事が出来る様、片手・ゆっくり・反復・部分練習 を組み合わせていく。限られた時間の中で、今までは理解させる事に重きを置いてきたが、自発的な練習は少ない学生が多い。そこで、これからは体に覚えさせるやり方をもっと取り入れようと思う。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 宮田 眞理 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55305be・ce **授業形態** : 演習 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	5	1	-	-	-	-	-	6	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					
				■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.67	[Progress bar]					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	4.00	[Progress bar]					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.17	[Progress bar]					
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切		とても 多い 16.7%	やや 多い 33.3%	適切 50.0%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.83	[Progress bar]					
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	4.83	[Progress bar]					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.67	[Progress bar]					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった		非常に 高かった -	やや 高かった 66.7%	適切 であった 33.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.67	[Progress bar]					
総合 評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.50	[Progress bar]					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.67	[Progress bar]					

1 授業の概要、特徴等

ピアノ演奏の初歩、バーナム・ケーラーの教則本を用いた授業。童謡弾き歌いの導入。音符の読み方・楽譜の理解・楽語の理解。指導は個人授業。

2 アンケート評価結果に対する見解

学生が興味をもって課題に取り組めるよう、曲の成り立ちや言葉の解説など色々な言葉かけをしていますが、なかなか予習や復習に結びつかないのが現状です。学生がこの曲が弾きたいと意欲を持てるよう更に努力をしたいです。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業で決められた曲数を合格し、試験でミス無く演奏する。童謡は弾き歌いで大きな声で歌える事。複数の講師で採点し、平均点を出す。平常点も加味される。

4 授業改善の方法

時間のかかるピアノの練習。やる気をいかに継続させられるか。ピアノに興味を持てるように色々な角度から、声掛けをしていきたい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 山下 玲子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55305af・bf・cf **授業形態** : 演習 **受講者数** : 14名 **回答者数** : 12名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	11	1	-	-	-	-	-	12	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.75						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	4.25						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.33						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	33.3%	66.7%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.92						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.75						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.58						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			16.7%	41.7%	41.7%	-	-	-	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.58						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.58						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.67						

1 授業の概要、特徴等

保育現場に必要な音楽の基礎技術を習得する為に、ピアノ曲の演奏とこどものうたの弾き歌いを、「音楽Ⅰ」に引き続き学ぶ。授業はグループ学習と個人レッスンで構成され、基本的な音楽知識、柔軟性のあるピアノテクニック、明瞭な発音と発声など多様な内容を学習し、演奏できる力をつける。これにより、保育者になるために必要な音楽的技術を習得する。

2 アンケート評価結果に対する見解

授業態度や総合評価の結果から、概ね適切な授業内容であったと思われる。課題の量やレベルについては、もう少し増やすことや、高いものを入れていくことも可能なようにも考えられるが、各学生の音楽的レベルの個人差はかなり大きいので、この授業としては慎重に判断するべきであろう。より高いレベルの内容は、「音楽Ⅲ・Ⅳ」で引き続き習得して欲しい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

ピアノ曲2曲とひきうたい曲4曲の計6曲の合格が、目標達成基準となる。なお可能な学生は、より多くの曲数を学習していく。成績は、中間試験と期末試験での演奏に対する評価点のほかに、平常点・達成点・欠席減点などを合わせて採点される。試験の演奏が良くなかった場合は、再試験が実施される。

4 授業改善の方法

音楽の基礎技術を習得し、向上させていくためには、各学生の日々の弛まぬ練習の積み重ねが必要であるので、時間をかけた予習・復習によって努力していきけるよう、効果的に声掛けをしていきたい。個人レッスンでは、時間を有効に使って、次への課題点を明確に示していく。良い練習習慣を会得して、目標を達成して欲しい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 奥田 尚子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅳ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55325ab・bb **授業形態** : 演習 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	6	-	-	-	-	-	6	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.17		[Bar chart showing distribution]				
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.33		[Bar chart showing distribution]				
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.83		[Bar chart showing distribution]				
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	と ても 多 い	や や 多 い	適 切	や や 少 な い	と ても 少 な い	無 回 答	
			-	50.0%	50.0%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.50		[Bar chart showing distribution]				
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気が乱れないように注意を払っていましたか	5	4.50		[Bar chart showing distribution]				
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.50		[Bar chart showing distribution]				
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非 常 に 高 か っ た	や や 高 か っ た	適 切 で あ っ た	や や 低 か っ た	非 常 に 低 か っ た	無 回 答	
			-	83.3%	16.7%	-	-	-	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.67		[Bar chart showing distribution]				
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.67		[Bar chart showing distribution]				
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.50		[Bar chart showing distribution]				

1 授業の概要、特徴等

一回生でピアノの演奏基礎技術を学んだ学生対象の2回生前期に続く授業である。基礎技術の確立と同時に表現する力を身に付けさせて現場で幼児にピアノでいろいろな曲の雰囲気をしっかりと伝えられるようにさせる。今自分の持てる力を最大限使っているいろいろなアプローチが出来るようにさせピアノに対しての劣等感を無くし自信をもって現場で音楽の指導が出来る指導者として自覚させる。

2 アンケート評価結果に対する見解

受講した学生についてはみな近年になく熱心でただ音を並べるのではなく納得いく演奏がしたいと粘り強い努力を重ねる学生が多かった。脱力して滑らかに楽に演奏する弾き間違いが減りテンポも速く2年間の受講の成果のしっかりと表れた学生が多かった。受講して良かった。苦手で無くなった。こんな風に素敵に弾けるんやと感想が聞かれた。又お互いに良くなったねと感想を言い合う場面もみられた。前年度の音楽1の取り組みの変更が手ごたえのある成果として感じられた。特に幼稚園保育所就職が決まった学生は学校にいる間に少しでも上手になりたいという気持ちが伝わる雰囲気であった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

目標は達成できた学生がほとんどであった。表情記号まできちんと反映させ演奏しなくてはいけないという意識が持てて良かった。初見演奏が実際の曲に変わり学生の取り組みに変化が見られた。ケーラーの後半はブルグ前半よりも難しいのでレベルにより判定が変わるのでちょっと判定で損をした学生がいた。(ブルグミュラーが嫌いらしく助言したが本人の意思に任せた)

4 授業改善の方法

曲数より授業受ける態度や演奏の達成度内容重視という次年度に向けての会議で話のでたので良かった。自由単位であるため就職にピアノが必要で無くなる又は幼稚園免許を諦めた学生が受講を取りやめたのは残念であった。保育園はピアノの試験が無いものの現場では幼稚園と同じくピアノは大切なスキルであることを理解させ受講取りやめの学生の意識を変える必要があると思う。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 和田 宏一 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅳ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55325ac・bc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 11名 **回答者数** : 7名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	7	-	-	-	-	-	6	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	4.14						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	4.14						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.00						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	14.3%	85.7%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.43						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.57						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.71						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			14.3%	28.6%	57.1%	-	-	-	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.29						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.14						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.57						

1 授業の概要、特徴等

一年次の音楽Ⅰ・Ⅱを修了した学生を対象に、より高度なピアノ課題への取り組みを目指した教科で、二年次前期が音楽Ⅲ、後期がこの音楽Ⅳになる。内容的にはピアノの個人レッスンで行われ、ピアノ演奏の課題を中心に、就職試験対策で初見視奏課題にも取り組む。また、実習や就職試験におけるピアノ課題曲のレッスンもこの授業にて対応している。

2 アンケート評価結果に対する見解

概ねこちらの予想に近い結果であると捉えている。ただ、遅刻は学生の回答よりも多かった印象である。また、課題の取り組みであるが、授業時間内に頑張っているなど思わせる学生は確かに多いものの、本来は自宅、または学校にて事前に練習をしてから臨むべき授業なのに、そのことが一部の熱心な学生にしかできていないことは残念であると思う。その辺りの指導は行っているつもりだが、より良い方法を今後も担当教員同士で話し合っていきたいと考えている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業内にて指定レベル以上のピアノ課題を3曲以上合格し、かつ初見課題に1曲以上取り組み、さらに期末の実技試験にて合格した者に単位が与えられる。期末試験では演奏の出来に対する評価を行い、平常点としては普段の取り組みの熱心さ、忘れ物の有無、爪を適切な短さに切っているか、出席状況などが評価の対象となっている。

4 授業改善の方法

先ほどの(2)でも述べたが、各学生が授業時間以外にどれだけ練習に取り組めるように指導していくかが今後への課題かと思う。学生の日常生活の内容にも関わる問題なので慎重に扱わないといけない側面もあるが、その生活の中でいかに練習時間を確保するか、またどのように練習するのが良いのかを学生個人と、また担当教員同士で話し合い、根気良く指導していく必要があると考えている。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 中田 奈月 **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 家庭支援論 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 52201a **授業形態** : 講義 **受講者数** : 36名 **回答者数** : 27名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	27	-	-	-	-	-	27	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	4.30						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	4.22						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.26						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	とても 多い 33.3%	やや 多い 33.3%	適切 33.3%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	-	3.56						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	3.74						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	-	3.85						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 37.0%	やや 高かった 29.6%	適切 であった 25.9%	やや 低かった 7.4%	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.44						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	3.74						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	3.78						

1 授業の概要、特徴等

・ディスカッションとワークショップにより授業を展開する。 ・学生は互いに学び、互いに評価することを求められる。 ・
 教員は授業中、ほとんど前に立たない(10分程度)。コーディネーター、ファシリテーターとして関わる。 ・授業外の授業準備
 に時間を費やす。毎週二時間以上の予習復習を求めている。

2 アンケート評価結果に対する見解

・ワークショップ、ディスカッション、自分と自分のグループ、自分のクラスのために授業準備をすること、互いに高め合うた
 めに評価しあうこと、というスタイルに、なれるのに時間がかかることから否定的意見が毎年多い。なかでも今年は互いに
 グループで分かり合おうとする意欲が低く、チームで「うまくやっていく」ことが難しい学生に不満が多かった。それが例年に比
 べて遅刻が多かったこととつながっている。また、このことが「グループ決定が不公平である」(くじ引きで決めているため「不
 公平」とも言えない)「ワークショップではなく講義形式にしてほしい」という意見につながっていると考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

到達目標 1.家庭の意義とその機能について理解する。 2.子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解する。 3.子育て家
 庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関連機関との連携について理解する 成績評価基準と単位認定 学生が互いに学び高め
 合うことによって到達目標に達することが単位認定の条件になる。 ・ワークショップスタイルでの学び(クラスワーク30% グル
 プワーク40%) ・学生個人によるレポート(30%)

4 授業改善の方法

学生にとっては予習復習にかなりの時間がとられ、負担が大きいのと思われるが、学習効果が大きいため、引き続きこのスタイル
 を継続する。次年度はチーム作りに少し時間をさく。アイズブレイクの時間を作り、ワークショップに早く慣れるよう促す。ア
 イズブレイクの分だけ時間外の授業準備が増えることが予想されるが、互いに高め合うスタイルに慣れていない学生には必要で
 あると考える。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 李 仙恵 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 障害者福祉 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 51020 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 8名 **回答者数** : 7名

回答者 内訳	学 年				学 科 ・ コー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	7	-	-	2	-	-	5	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.86						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.71						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.43						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い	やや 多い	適切 100.0%	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.57						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.57						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	4.57						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	14.3% 14.3% 71.4% - - -
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.57						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.57						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.43						

1 授業の概要、特徴等

この授業では、障害者福祉の理念、障害者差別問題、障害者虐待問題、障害者雇用等に関する課題を設定して授業を進めた。学生に今日の障害者を取り巻く状況を理解してもらうため、障害者施設反対運動や障害者虐待等の社会問題を取り上げ、それぞれの立場で議論をし、意見交換を行った。講義のみではなく、学生自身の興味や意見を尊重しながら、障害者の福祉問題について理解を深めた。

2 アンケート評価結果に対する見解

この授業は7人という少人数だったので、時間をかけて学生の理解度に配慮して授業を進めることができた。授業のレベルも学生それぞれに合わせて調節し、とりわけ、学生が問題意識や関心を持つテーマを設定し、お互いに議論ができたことが学生によるアンケート評価に反映されたと思われる。私語や居眠り、携帯電話の使用に関しては、徹底的に注意をさせ、学生が授業に集中できるようにした。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

この授業では、今日の障害者の福祉問題について学生自身が興味を持って授業に取り組むことを重視した。成績は、授業態度(出席とコメントカード提出)とレポート、テストで評価し、授業態度とレポートを重視した成績評価基準を設けた。授業参加、コメントカード提出、レポート提出、テストの結果を総合的に踏まえて、成績を評価し、単位を認定した。

4 授業改善の方法

少人数の利点を生かしてグループに分けて指定課題に取り組んでもらうようにし、学生自身が情報を検索し、自ら問題意識を持つように促したほうがよかったと思う。また、講義中心になることが多く、学生が受動的な立場で講義を聞き流すことがあるので、事前学習を取り入れ、授業にもっと積極的に参加してもらうように改善をしていきたい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 早川 淳 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 小児保健B **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 52110ab **授業形態** : 講義 **受講者数** : 74名 **回答者数** : 56名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	55	1	-	-	-	-	-	56	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.64					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	2.91					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	3.49					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや 少ない	とても 多い 10.7% やや 多い 21.4%	適切 64.3%	やや 少ない 1.8%	とても 少ない 1.8%	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	3.38					
授業の 進め方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	3.39					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	3.56					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 8.9% やや 高かった 28.6%	適切 であった 58.9%	やや 低かった 3.6%	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	3.30					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	3.61					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	3.54					

1 授業の概要、特徴等

乳幼児期によくある疾患を学び、保育における環境及び衛生管理・安全管理について理解していくことを中心課題とした。子どもの疾患とその予防法とその対策について学び、理解していくことは、幼児教育者にとっても、また、子どもを育てる上でも必須条件である。さらに、精神保健面とその課題について、保育者としての役割と機能、安全教育についても言及していき、子どもに対する保健衛生面への知識の必要性を授業のなかで学習できるように準備した。

2 アンケート評価結果に対する見解

学生の意見を真摯に受けとめながら、自己改善していきたいと思う。・字が汚いことについては一番気をつけながら授業を進めた。どうしても大事などころなどは板書した、それも学生に理解できるように板書して、努力したつもりである。今後は板書の方法を考案してわかりやすい方法を検討していく。・さらに、学生に役立つ内容を再考して、講義していきたいです。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

後期に自分の授業目標達成ができているかどうかと、尋ねられると不十分な点もあると思います。学生の成績評価に対して、平均点が前期よりよかったので授業の目標達成はできているかと自負しています。子どもの保健衛生面についてグループでまとめと発表をすることを課題とした。この目的は学生が自ら勉学することや知識を得ることの楽しさを感じることが出来るように企画した。そこで、学生達の持てる力を発揮できる機会にもなった。

4 授業改善の方法

現場の教諭や保育士たちが一番、養成校に期待するのは子どもの年齢別発達の様子である。そのため、授業のなかで子どもの発達や成長などは小児保健の分野でもある。もちろん、小児保健は身体面であるがやはり心理面の発達もかね添えていかなければいけない。学生の意見も大事にしなが現場の声も大事にして学生に勉強の意欲がわくように授業内容にしていくつもりである。学生が講義に興味を持って、理解が深まるようにしていきながら良い講義ができるように努力していく決意です。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 片岡 三和 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(言葉) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53130ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 74名 **回答者数** : 60名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	58	2	-	-	-	-	-	60	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.98						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.43						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.97						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 3.3%	やや 多い 6.7%	適切 88.3%	やや 少ない 1.7%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.43						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気が乱れないように注意を払っていましたか	4	4.20						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.50						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 3.3%	やや 高かった 16.7%	適切 であった 80.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.22						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.32						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.33						

1 授業の概要、特徴等

幼児教育には、幼児期に経験しなければならないこと等、未分化の時代にある独特のものがあります。教育要領でいう「心情・意欲・態度」の伸びを大切にしているのです。それらのものが理解されなければ、後の専門知識や技能が成り立たないのです。そして、そのことを様々な窓口を通して学生たちに伝えることが必要だと思っています。その土台の上に「言葉」の領域の専門性を生かしていきたいと考えております。

2 アンケート評価結果に対する見解

教科書については読むだけで覚えるものと、内容を理解して具体的に収めるものがあると考え、そのように説明して進めているつもりでしたが、以後、学生たちに納得するように話してみます。おしゃべりをしている学生についてですが、私にはほとんど気にならない程度なのです。今後、そんな程度のおしゃべりが気になる学生のほうを注意してみたいと思います。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

伝えなければならないこと、伝わらなければならないことは温度差や理解度の少しの差はあるものの、方向としてはほとんど全員つかんでくれたと自負しております。

4 授業改善の方法

授業の中身はそのことを信じるから学生に伝えられる。子どもの見方、捉え方、そして子どもの成長のために必要なことの伝え方等は考え方が様々であり、今、講義しているものが全てではないことをきちんと伝え、これから出会うであろう様々な考え方も含め、自分が自立する時の考え方の参考にしていただきたいと切に願って授業を謙虚に展開していきたいと思っています。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 石田 裕子 **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育実習指導Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 57212 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 35名 **回答者数** : 35名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	33	1	-	-	-	-	32	-	1	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価				
				■ 学生の評価平均				
				1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.51					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	4.20					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.51					
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い -	やや 多い 31.4%	適切 68.6%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.63					
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.80					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.71					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 5.7%	やや 高かった 28.6%	適切 であった 65.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.63					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.71					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	4.57					

1 授業の概要、特徴等

実習のための事前事後指導の内容の授業であった。1回生前期から実習指導の科目においては、授業態度、提出物、マナー等については厳しく指導を行ってきた。実習施設に関する知識を習得し、自己の行動を振り返り、自己の課題を明確にし、課題克服に向けてどのようにしたらよいかについて考えることを求めた。この授業では、グループワークを多く取り入れ、模擬保育や、保育士の資質について考え、保育士に必要な連携について経験する機会も提供した。

2 アンケート評価結果に対する見解

すべての項目が全体平均を上回っており、満足度は高いと思われる。多くの学生は真剣に取り組んでいた。しかし、この単位を落とすと実習に行くことができない、という緊張感を持って、授業に臨んだ結果だと思う。他の授業との兼ね合いもあり、課題の量については悩みどころであるが、適切が、68.6% やや多いが31.4%となっており、おおむね許容の範囲内であると考えている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標は以下のとおりである。 1. 保育所実習の目的と意義を理解する 2. 保育実習に意欲的に取り組み、保育実習の目的・内容を理解する 3. 自己を振り返り、自己の課題を明確にする 4. 保育実習の心構え、注意点を理解し、実習に向けての事務連絡及び諸手続きを行う 5. 保育所保育士に求められる資質について考える 提出物、受講態度、連携する姿勢等を単位認定の基準とした。おおむね達成できたと考えている。

4 授業改善の方法

前半は緊張感を持たせることで学生を指導をしていたが、グループワークを取り入れる場合は、それぞれ学生個人が意欲的に取り組めたように思われるので、前半からグループワークを取り入れることを検討する。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 鈴木 千晴 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育心理学演習 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 52011ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 71名 **回答者数** : 59名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	57	-	-	2	-	-	-	57	-	-	2

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
		1	2	3	4	5			
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	3.86						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.14						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.66						
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや多い	3.86	とても多い	やや多い	適切	やや少ない	とても少ない	無回答
				6.8%	22.0%	67.8%	1.7%	-	1.7%
授業の進め方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	3	3.72						
	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気が乱れないように注意を払っていましたか	-	3.53						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	3.61						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切であった	3.63	非常に高かった	やや高かった	適切であった	やや低かった	非常に低かった	無回答
				16.9%	16.9%	66.1%	-	-	-
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.63						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	3.66						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	3.93						

1 授業の概要、特徴等

この授業は、保育心理学を発展させた内容で保育心理学に関する知識の紹介と毎回事例を読みその知識を実際の事例に沿ってどのように生かすことができるかを考えるという枠組みで行った。正解が一つに決まるという形ではなく、あくまで実践的に自分で考えるということを大切にしたい。学生からのフィードバックを大切にしたいという狙いで当初は発言を重視していたが発言が苦手な学生も多く、小レポートの形をとった。

2 アンケート評価結果に対する見解

授業の雰囲気に関するフィードバックが多く、授業の進め方についても評価がやや低い。自分で考える事、周りとは話し合ってみて考えを深めることを重視したため、座席は自由としたこともそのようなことの要因であると思われる。また、自主的な参加でないという意味がないということを授業では強調し、その都度注意してもこのクラスのためにならないのではないかと話をしたこともあって、こちらの意図が全て伝わらなかったと思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

自主的な取り組みや姿勢を重視したため、小レポートや中間、期末テストでは熱心に取り組み学生とそうでない学生の差が大きかった。そのため、それを成績にそのまま反映させた形の評価となった。また、毎回の小レポートとテスト及び補足の課題で評価し、自分があとどれだけ何をすれば単位に足るのかとすることを明確に何度かフィードバックしたため、単位を落とす学生は少なかった。

4 授業改善の方法

自ら考えるという課題を毎回設けて授業を行ったが、そのようなスタイル自体に違和感を申し出る学生もいた。自ら考える課題を出したことで考える力をつけた学生がいる一方で、与えられた作業をこなしたり覚えたりと言った学習の方が参加しやすい学生には参加が難しい授業になってしまった。反省点として、授業の雰囲気の改善と様々なレベルに応じた課題、授業中のタスクなどを考えていかなければいけないと思われる。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 石田 伸子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育相談支援 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53311ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 68名 **回答者数** : 58名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	55	2	-	-	-	-	57	-	1	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	3.76						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.28						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.76						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	と ても 多 い	や や 多 い	適 切	や や 少 な い	と ても 少 な い	無 回 答	
			-	36.2%	63.8%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.05						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	3.97						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.09						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非 常 に 高 か っ た	や や 高 か っ た	適 切 で あ っ た	や や 低 か っ た	非 常 に 低 か っ た	無 回 答	
			6.9%	48.3%	44.8%	-	-	-	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.95						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.03						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	3.93						

1 授業の概要、特徴等

現代社会が抱えている問題は多種多様で、それぞれ異なった環境の中で子育てに不安を抱える保護者が増加している。保護者の声に耳を傾け、個々に合った適切な対応・援助ができる専門知識を身につけた信頼のおける保育者の存在が必要となる。具体的な事例や、ビデオを通して、相談者としての基本的な知識・態度を学び、自主的な議論の中から自分で考える力をつけていく。

2 アンケート評価結果に対する見解

具体例を多く取り上げたり、主体的な話し合いなどで興味を持てるように努力をしたが、それぞれの理解力の差が大きく十分理解できていない学生がいることに気づいた。また発表や話し合いの苦手な学生への配慮も必要であることを感じた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

シラバスに沿って講義を進め、基本となることは伝えられたと思う。保育相談支援に際し、保育者としてなすべき事柄が理解できているかを評価基準とし、日々の学習態度、グループでの討議の内容、レポート及びテストの結果で単位を認定した。

4 授業改善の方法

グループでの話し合いはそれなりの成果があったが、苦手意識を持っている学生もいた。個人差が大きく、理解できている学生にはそれなりの課題に取り組めるよう配慮しながら、理解の遅い学生にはもう少しペースをゆっくりと確認しながら授業を進める必要がある。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 福井 靖子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・幼児造形 I) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53150abc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 72名 **回答者数** : 59名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	59	-	-	-	-	-	-	58	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.95		[Progress bar from 1 to 4]				
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.20		[Progress bar from 1 to 3]				
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	3.85		[Progress bar from 1 to 5]				
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 5.1%	やや 多い 20.3%	適切 71.2%	やや 少ない 3.4%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	3.54		[Progress bar from 1 to 5]				
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	3.64		[Progress bar from 1 to 5]				
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	3.66		[Progress bar from 1 to 5]				
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 10.2%	やや 高かった 27.1%	適切 であった 61.0%	やや 低かった 1.7%	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	3.47		[Progress bar from 1 to 5]				
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	3.61		[Progress bar from 1 to 5]				
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	3.75		[Progress bar from 1 to 5]				

1 授業の概要、特徴等

講義と実践・実際の子どもの作品に触れることによって、幼児の成長にとって重要な役割を果たす幼児造形活動について理解を深める。幼児の生活経験や思いつきなどを大切にすることで、創造的な態度を醸成するためのより具体的な指導法を学ぶ。幼児造形の基本としての、描画・制作・土粘土を前半で学ぶ。応用として、保育実習や採用試験での実践力を身につけるための、小麦粉粘土・モダンテクニック・ポップアップを後半で学ぶ。

2 アンケート評価結果に対する見解

前回の考察でも述べたが、学生にアンケートを行った時期が後期の途中で、全ての授業内容が終わっていない。前半の基礎的な内容を踏まえて、後半の応用的な内容(実習や採用試験での実践力になるもの)を学ぶように授業を組み立てている。学生へのアプローチの仕方も異なるので、全てを受けていない学生のアンケート結果には少し疑問が残る。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

幼児期の造形表現では、技法や技術にとらわれずに自由な表現活動ができることを念頭に置かなければならない。保育者は、幼児の生活経験や思いつきなどを大切にすることで、創造的な態度を醸成することが重要である。そのために不可欠な、幼児造形に対する理解と、造形技術の習得を目指す。 評価基準：授業態度(理解度、意欲的かどうか) 50% 提出作品(作品数、完成度、独創性) 50%

4 授業改善の方法

前半の授業では、学生の自由度を最大限尊重している。その中で、いかに集中し創意工夫する態度を身につけさせるかが課題である。そのための参考資料、参考作品、アプローチの仕方、言葉がけを工夫したい。後半では、楽しみながら造形技術の習得がしっかりできるように、個人指導を徹底したい。全体を通して、よりいっそう褒めて伸ばすことにこだわりたい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 安永 龍子 **職名** : 准教授 **所属** : 専攻科
科目名称 : 介護概論Ⅱ **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7210 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	3	-	-	6	-	-	-	-	9	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.00						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.78						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.89						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	22.2%	77.8%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.22						
	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.33						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.33						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			-	44.4%	55.6%	-	-	-	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.11						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.22						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.22						

1 授業の概要、特徴等

介護福祉士が働く介護サービス提供の場と特性を理解するとともに、介護者と利用者の安全を守るリスクマネジメントについても学習する。また、介護者の健康管理についても学習していく。

2 アンケート評価結果に対する見解

予習復習についての平均値が全体平均値よりも少しだけ高かった。穴埋め式資料を用意し提出を求めたことや、教科書のある章の自己学習を課題として出しその確認テストを行うことで学生は予習復習を行ったと評価したのではないかと考える。自由記述で板書について「ごちゃごちゃしてどこに書いているのかわからなくなったりした」とあった。板書については、分かりやすくきれいに心がけてはいるが、その都度学生が理解できているかを確認しながら書かなければならないと感じた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

評価基準としては、知識の修得に趣を置き筆記試験の比重を80%とした。介護の信頼や安全性を考えると知識の修得は重要である。この基準は今後も続けていく。再試験者は生活福祉コース7名(16名中)、専攻科1名(9名中)であり、単位認定ができなかったものが1名いた。学生の自己評価として予習復習をしていたにも関わらず、成績としては振るわない学生が多かった。予習復習が知識の修得(授業の目標達成)に繋がっていない感がある。

4 授業改善の方法

- ・板書については、学生の理解を確認しながら進めていく。
- ・予習復習、課題が知識の修得に繋がるように工夫をする。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 北口 照美 職名 : 教授 所属 : 専攻科
 科目名称 : 居住環境整備の技法 科目群 : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
 授業コード : 7265 授業形態 : 演習 受講者数 : 9名 回答者数 : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	3	-	-	6	-	-	-	-	9	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
		1	2	3	4	5			
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.78	[Bar chart showing student average at 3.78]					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.56	[Bar chart showing student average at 3.56]					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	3.78	[Bar chart showing student average at 3.78]					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや多い	4.00	とても多い	やや多い	適切	やや少ない	とても少ない	無回答
				11.1%	11.1%	77.8%	-	-	-
授業の進め方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.00	[Bar chart showing student average at 4.00]					
	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	4.00	[Bar chart showing student average at 4.00]					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.00	[Bar chart showing student average at 4.00]					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切であった	4.11	非常に高かった	やや高かった	適切であった	やや低かった	非常に低かった	無回答
			11.1%	44.4%	44.4%	-	-	-	
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.11	[Bar chart showing student average at 4.11]					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.33	[Bar chart showing student average at 4.33]					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.33	[Bar chart showing student average at 4.33]					

1 授業の概要、特徴等

快適な住まいを快適な環境として整備するための要件を理解する講義である。介護福祉士養成の科目として、高齢者等への生活を支援する福祉住環境という視点での講義が中心となっているが、人間生活に必要な環境条件を数値で科学的に理解することを基本としている。また、生活は、住まいだけでなく近隣環境のあり方も重要となってくる。本講義では地域環境も含めて広く生活空間を理解することを特徴としている。

2 アンケート評価結果に対する見解

アンケートは、妥当な回答がされていたと感じられる。ほとんどの学生は受講態度もよく提出物も期限内に提出し、まじめに取り組んでいた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標は、快適な居住のために必要な寸法や温熱・光・音環境などの基本的な数値を理解すること、居住環境整備の方法を提案すると共に、必要性の根拠を説明できることである。成績の評価基準は、生活に必要な環境条件の理解である。単元ごとのまとめのテストやレポートを課し、最終の試験を実施する。小テストを繰り返すことの積み重ねで、基本的な事柄を理解することが出来ていると判断され、単位を認定している。

4 授業改善の方法

学生から「声が小さい」「聞こえない」という意見がある。もう少しゆっくり話すことを心がけたい。板書や要点を記載したプリント配布を中心に進め、学生が自分の手で書くことで学習が深まるようにしている。講義内容の単元毎にまとめの小テストをしているが、この小テストで学生の理解力を把握して個別に指導し、より深い理解につなげたい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 山田 和歌子 **職名** : 非常勤 **所属** : 専攻科
科目名称 : 障害の理解 **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7425 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	3	-	-	6	-	-	-	-	9	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.89					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.22					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.22					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや 少ない	とても 多い - やや 多い 33.3%	適切 66.7%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	2	3.78					
授業の 進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	3.78					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	3.89					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった - やや 高かった 44.4%	適切 であった 55.6%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.78					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.22					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.22					

1 授業の概要、特徴等

今回は前回の講義の反省を踏まえ、視覚的にわかりやすく授業を進めることを試みた。しかし学生が「授業が早い」「わからへん」との言葉があり、学生を理解し学生のレベルに合わせる必要を感じた。誰もがわかりやすい言葉を選び学生が興味を持つことを意識し、遊びや楽しみの体験を基に、そこから障害の理解の内容に連結させる講義をすることにより、学生から質問や～してほしいなど、学生からの意欲的な面も見られた。

2 アンケート評価結果に対する見解

アンケートについては15回授業の中の4回目の授業でのアンケート結果なので、私自身の授業を改善する必要があった時期でもある。11月の実習のため内部障害というところからスタートした。内部障害は体のしくみが理解できた上で疾患や身体の機能、心や社会の問題等を理解する必要があり、今回は学生には理解するのに時間がかかる項目だったかもしれない。できれば何回も試行錯誤を試み、授業改善後の結果を知りたかった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標達成においては「理解できる」でも詳細が異なる。例えば、言葉に表すことはできないが意味や内容がわかると自分の言葉で説明ができるの違いである。今回は個々にそれらによる差が出たように思う。試験でも選択問題ができるが文章を書くとなかなか不十分であったり、文章は書いているが内容が不十分であったりしていた。単位認定はしたが、予習復習をすることで自らの目標のハードルを上げ向上して欲しい。

4 授業改善の方法

授業で、ある言葉を別のわかりやすい言葉に置き換える。しかし複数の人に伝わっても残りの人には伝わらない。その言葉をまた別の言葉に置き換える。私の言語への能力不足もあり、個々の学生の能力に応じた授業は私では不十分だと思った。そこで補習する時間を取って理解してもらおうと試みたが誰も補習してほしいとは言って来なかった。私自身人に理解してもらえるように伝えるということは努力してみたが困難な領域かもしれない。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 吉田 裕司 **職名** : 非常勤 **所属** : 専攻科
科目名称 : 発達と老化の理解 **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7410 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	3	-	-	6	-	-	-	-	9	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.67						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.11						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	2.89						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い 22.2%	やや 多い 33.3%	適切 44.4%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	3.33						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	3.22						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	3.33						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 11.1%	やや 高かった 66.7%	適切 であった 22.2%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.11						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.00						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	3.33						

1 授業の概要、特徴等

概要 介護に必要な加齢医学について学ぶ。特に高齢者に多い疾患、介護が重要な役割を担う疾患について理解を深める。
特徴 国家試験に即した内容を中心とする。教科書、スライド、プリント、練習問題を用い講義を進める。声が行きわたる様にマイクを使い、欠席者にもプリントを配布し、後部座席にも見えるようスライドを用い、学生に公平に授業内容を伝えることに努める。

2 アンケート評価結果に対する見解

全体的に平均を下回る結果となった。本年度からプリントと練習問題を追加導入したが、アンケート結果・授業態度・筆記試験結果から、ねらい通りの効果が得られていない事が分かった。来期は各回ごとに課題を与え、講義の理解をもっと深めていくことを目指したい。「プリントが分かりにくい」、との声があった。プリントはスライドを白黒で印刷したもので、カラー部分・写真は分かりにくい。授業の説明、スライド、教科書で補足し、メモをとることを勧めたい。「練習問題の空欄」は、来期に検討することとする。「暗記ものが多い」と思うためか、肝心の介護との関連を理解できていない生徒が目立った。来期は、課題を掲げることで対応したい。用語は使うことで自分の物になると思う。「眠気が生じる」を防ぐため、課題を意識すること、授業中のメモを勧めていきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標達成 介護に必要な加齢医学について学び、特に高齢者に多い疾患、介護が重要な役割を担う疾患について理解を深める事を目的とする。
成績評価基準と単位認定 受講姿勢10%筆記試験90%で採点し、60%以上の得点で単位を認定する。

4 授業改善の方法

来期は各回ごとに課題提出を追加し、講義の理解を深めていく。練習問題の空欄設定を検討する。授業中のメモを推奨する。